

●30周年記念の集いの返答 70通に到達しました

8月1日に配達されたと思う案内ハガキへのご返答が70通(発送数550通)に達しました。その多くが、ご家族様からの逝去されたとの連絡です。この間いろいろのイベントに参加してきたけれど体の不自由でやむを得ず欠席とすると届けられています。出席参加するとの返答は15通で、よろしくたのむといった内容でした。まだまだ多数の皆様からの返答が圧倒的に未送信ですのでよろしくお願いします。9月1日必着でとお願いさせていただきました。ご返信のおり出席可否に関わらず一言近況をお書き添えお願いいたします。

進捗状況は活動記録集(30年間)の原稿(87頁)が出来上がったところです。これから校正修正加筆が必要です。他に会誌総目録など10項目のCDも出来上りました。ご参加いただいた方々には配布予定をしておりますが、物価高騰のおり出席者人数で準備を開始いたしますのでご協力のほどよろしくお願いいたします。



●天ヶ瀬ダムと巨椋池排水機場・大池神社見学学習会を20日実行いたします

近頃の異常気象を皆様はどのように受け止められているのでしょうか。熊本地震・能登地震の連続、そして体温を超える気温の連続、この前の冬の晴天続き、一方ではダブル台風の襲来・コースを間違えたかのような15号台風そして時々の激しい降雨による水害が起きています。約70年前の宇治川水系での山城水害は8月と9月に連続した水害が発生いたしましたことを思わずにはいられません。琵琶湖の管理や川にダムの建設が対策とされ、天ヶ瀬ダムや高山ダムが建設されました。近年その一つの日ヶ瀬ダムに新しく放流水路の建設がされたので見学会の開催要望に応じて計画いたしました。特に宇治川水系で巨椋池の干拓に至る大切な歴史資料が準備できました。また、10名以上の団体なら説明いたしますとのダム管理の決まりでギリギリの10名がお集まりいただきました。

●9月5日第31回里山講演会を開催いたします、多くご参加をお願いいたします。「河川レンジャーが果たしてきた役割と里山の会」として第31回目の講演会を開催いたします。淀川や木津川で川に関わっての活動をお知らせいただきます。里山の会が30年の活動を続けられてきたのは河川レンジャーが非常に大きな役割を果たしました。活動の幅や川での知識・注意と安全・川の役割と歴史そして流域の出来事などを学び、財政面と併せて会活動の参考になりました。そして里山の会の活動から多くのレンジャーが生まれ、淀川流域の木津川がけん引役を担うほどになってきています。会活動の発展を支えてきた苦労話と歓びなどを学ぶ機会として開催させていただきます。出来れば今も課題となっている若い人たちに活動を理解していただく機会になれば有難いと思っています。

主な講師(予定) レンジャー事務局 (枚方市) 瀬戸口・宝藤さん

南良靖男 京都嵐山在住 中尾 博 木津川市加茂在住

田中美知世 奈良市在住 山村武正 京田辺市在住

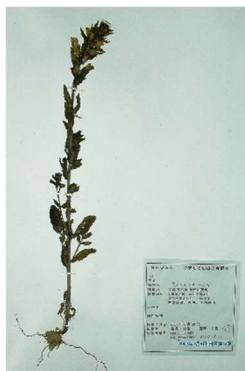
各講師予定者は活動が忙しく都合がつかない場合がありますがご容赦ください

●赤島涼子・福井波恵 木津川市在住 ●山田信人 宇治市在住 ●山村元秀 八幡市在住

●クマは、奥山に棲み、森をつくる クマは奥山の自然林に生息し、春はブナやクヌギの新芽、花芽を食べ、秋はドングリを食べます。冬は大木の樹洞で冬眠し、子どもを産みます。クマは、毎日5-10kmを歩きます。あちこちで糞をするので、消化されなかった種が芽を出し、森をつくります。クマが人を襲うのは、突然人と出会って恐怖を感じて襲うのです。クマの歯は食草動物系の歯です。肉食動物系の歯ではありません。クマは人を避けるので、クマよけの鈴でクマと「鉢合わせしないように、よけてね」と遠くから伝えているのです。

近年は減反政策で里山の農家が減り、犬の放し飼いが禁止になったので、クマは農家の柿や栗を食べに置く山から下りてきています。最近では町まで下りて、残飯を食べるクマもいます。そして町や人の様子に興味して、人を襲う異常な行動をするクマもいます(専門家は「人に危害を与えたクマは山に戻してはいけない。処分するしかない」と言います。)

乙訓の自然101号から引用させていただきました



ヒキヨモギ

アオギリ

トキンソウ



ウリクサ

クズ



ヘクソカズラ

八月に咲く木津川の花